



きざき

題字：寺尾 貞男 氏（笹山）

令和4年3月7日

令和3年度 第8号

ペイ・イット・フワード

校長 増井 一久

「信号機のない横断歩道における車の停止率」の都道府県別ランキングが毎年発表されています。2020年は長野県が1位で停止率72.4%でした。長野県はこのランキングですっと1位を獲得し続けています。新潟県は4位とかなり上位です。ですが、停止率は長野県より23%低い49.4%です。

数年前、北警察署の交通課長様は「長野県の停止率が高い理由」を次のように仰っていました。

長野県は何年も前から停止率が高い。その理由は、自分が子どものころ、横断歩道を渡ろうとして待っていると、ほとんどの車が停止して渡らせてくれた。大人の優しさに触れた子どものころの経験が、自分自身が大人になり運転免許を取った時、渡らせる側の「当たり前」として自然に行動に表れている。

交通課長様は「新潟県もそのような思いやり運転者の多い県にしたい。」と夢を語っておられました。ちなみに、新潟県の停止率は2018年は13.8%でしたが、2年後の2020年には49.4%に大きく上昇しました。停止率の全国平均も年々高くなっています。「善行の連鎖」が起きていると言えます。

表題の「ペイ・イット・フワード」は、直訳すれば「前払い」です。ですが、最近では先ほど述べた「善行の連鎖」や「恩送り」と訳されることがあります。

木崎小学校でも子どもたちは「ペイ・イット・フワード」（善行の連鎖や恩送り）をたくさん経験しています。例えば、あいさつ運動は「善行の連鎖」の一つです。当校では、マントを着けた高学年の子どもたちが毎朝玄関に立ち、登校してきた子どもたちに「おはようございます」と声を掛けています。さわやかにあいさつし合うことの気持ちよさを実感した子どもたちは、自分からも進んであいさつをするようになります。

さらに、縦割り活動は6年生のリーダーを中心に、日々の清掃や弁当の日などの様々な行事で、一つ上の学年の子どもが下の学年にアドバイスし、協働的に活動することで、互いに育ち合います。このことは当校のよき伝統のバトンをつないでいると言えます。これは正に「恩送り」です。

さて、まもなく令和3年度が幕を閉じます。今年もコロナ禍が続きました。冬休み明けには当校でも感染者が出て、学級閉鎖の措置を取りました。このような中、地域や保護者の皆様からは、これまでと変わりなく当校へのご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。おかげで、子どもたちに夢を描く力を育む教育活動を推進することができました。

「きざき」本号では、今年度の当校の教育活動の自己評価を掲載いたします。当校のよき伝統を次につなぐ、つながる、つなげるよう、今後も皆様からのご支援をよろしく願っています。

学校評価年度末報告

「保護者意識調査」にご協力いただきありがとうございました。9月からの教育活動を振り返りました。その結果をお知らせします。

1【資質・能力&授業力】

自分で課題を見付け、主体的・協働的に学ぶことについて重点的に取り組んでいます。

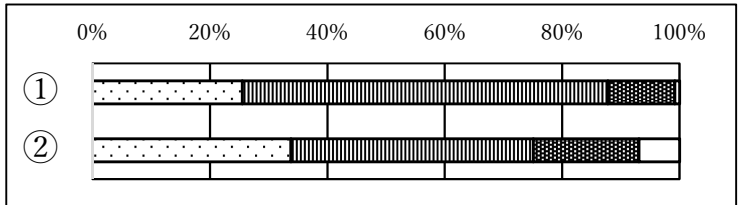
グラフの見方  そう思う  まあそう思う  あまり思わない  そう思わない

「そう思う」と「まあそう思う」を肯定的評価として捉えています。

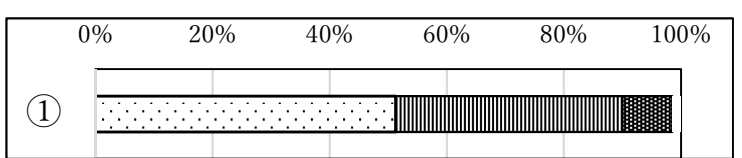
<保護者意識調査>

()内は、前期との比(△プラス・▼マイナス)

| 項目 | 肯定的評価の割合 |
|------------------------------|---------------|
| ① 学校の勉強の内容が分かっていますか。 | 87.8% (△1.9%) |
| ② 「10分×学年」の家庭学習の声掛けや確認をしている。 | 75.1% (▼2.7%) |



| 項目 | 肯定的評価の割合 |
|--------------------------------------|---------------|
| ① 生活科・総合的な学習の時間で調べたいことを見付けて学習していますか。 | 90.0% (△5.0%) |



<今後に向けて>

今回の保護者アンケートの結果をみますと、「学習内容が分かっている」の肯定的評価が85.9%⇒87.8%と、前年度評価を上回りました。一方、「10分×学年の家庭学習の声掛けや確認をしている」の肯定的評価が77.8%⇒75.1%と、前年度を下回りました。家庭学習への声掛けを積極的にしていただいているご家庭が多いことに感謝をしますと同時に、学校でもご家庭との連携を図り、望ましい学習習慣をつくっていくために「ステップアップタイム」での指導を継続してまいります。学習内容の定着については、これまで同様、年度末までしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

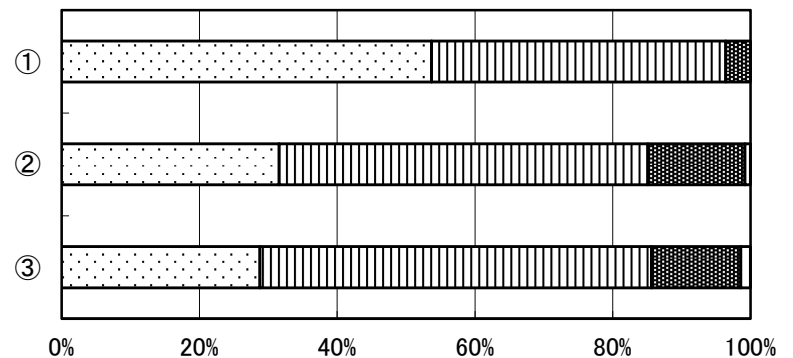
児童のアンケートの結果をみますと、「生活科・総合的な学習の時間で調べたいことを見付けて学習していますか」の肯定的評価が85%⇒90%と向上が見られました。今年度は各学年が地域のお店や施設などとコラボレーションする機会に恵まれ、地域の方々と触れ合い、地域の方々に働きかける活動が充実しました。木崎小学校区には、魅力ある教材がたくさんあります。今後も地域の素晴らしいところを子どもたちが見付け、探究し、学習できるよう、職員も研修を深めていきたいと考えています。今年度もあたたかいご支援をいただきまして、ありがとうございました。

2【自立&支持的風土】 子ども一人一人を多面的に理解し、子どもに良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、子どもとの信頼関係を築くことを重点目標として取り組んでいます。

<保護者意識調査>

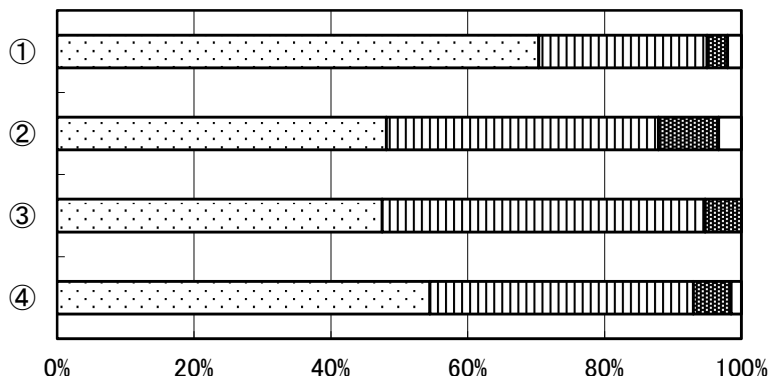
()内は、前期との比(△プラス・▼マイナス)

| 項目 | 肯定的評価の割合 |
|----------------------|---------------|
| ① 学校に行くのが楽しそうである。 | 96.4% (▼0.9%) |
| ② 家族や地域の方にあいさつをしている。 | 85.1% (▼1.3%) |
| ③ 周りの人のことも考えて行動している。 | 85.6% (△1.1%) |



<子どもアンケート>

| 項目 | 肯定的評価の割合 |
|---------------------------------|------------------|
| ① 学校は楽しい。 | 95.8% (▼0.8%) |
| ② 自分にはよいところがあると思う。 | 87.9% (▼0.9%) |
| ③ 自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動している。 | 94.7% (△1.9%) |
| ④ お互いのよさを認め合っている。 | 93.0% (▼0.5%) |



「① 学校が楽しい」についての肯定的評価は、前期より若干下がりましたが、保護者評価、児童評価がいずれも95%以上と高い割合になっており、学校生活が楽しく、友達関係が良いと感じている様子が分かります。

保護者意識調査の「② あいさつ」についての肯定的評価は、前期より若干下がりました。生活目標の期間だけではなく、年間を通してあいさつの指導を行い、これまで以上に家庭・地域へもあいさつが広がるようにしていきます。

子どもアンケートの「② 自分には良いところがある」についての肯定的評価は、前期より若干下がりましたが、「たくさんあると思う」だけを見ますと、前期の38.3%から後期48.1%と、かなり高くなりました。

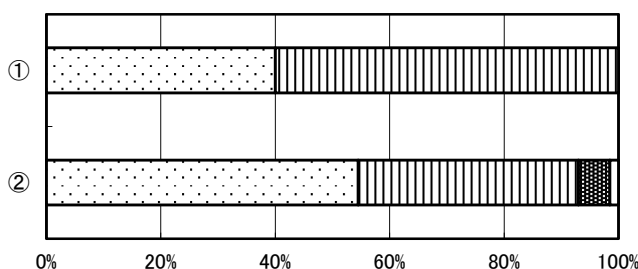
「③ 周りの人のことも考えて行動している」の肯定的評価は、保護者と児童に開きがありました。これからも、互いに認め合うことを生活目標として取り組み、委員会活動など、児童主体で友達や自分の良いところを目に見える形に表すことで、自分の良いところを認めたり、気付かせたりしていきます。

3【特別支援教育】

自立と社会参加を目指した適切な支援を行うと共に、児童同士が互いの理解を深め、多様な個性を尊重できる環境作りを行うことに重点的に取り組んでいます。

()内は、前期との比(△プラス・▼マイナス)

| 項目 | 肯定的評価の割合 |
|--|-----------------|
| ① 個別の教育支援計画並びに個別の指導計画を活用し、児童の特性を全職員で共通理解しながら、適切な指導を行っている。(教職員調査) | 100% (±0%) |
| ② 自分とは違う感じ方や考え方を知り、お互いの良さやがんばりを認め合っている。(児童アンケート) | 93.0% (▼0.5) |



<今後に向けて>

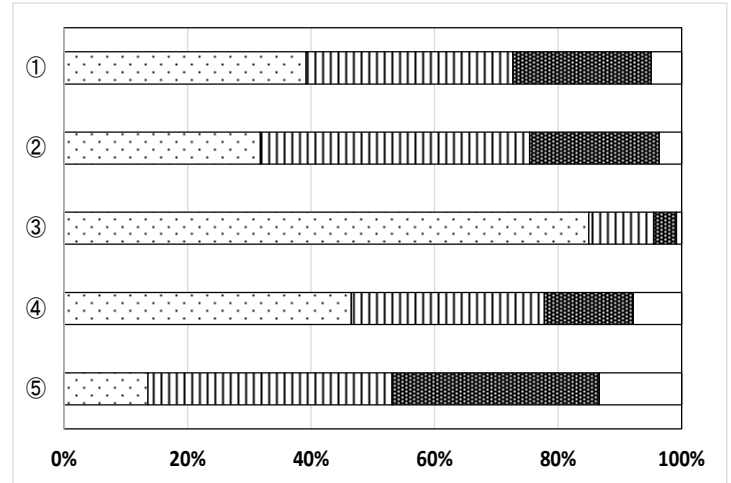
今年度の実践を生かし、次年度も特別支援教育の一環として、思いやりや個性尊重の授業を道徳などの時間に取り入れていきます。また、個別の指導計画がより活用できるように、学年部で共通理解する会議を夏休みに設け、職員間での共通理解をより深めていきます。また、校時表や学習のルールなどのユニバーサルデザイン掲示物を活用し、どの子どもも安心して学習できる環境作りに努めていきます。

保護者の皆様とは、個別懇談などの機会を通して、お子さんについて共通理解を図ることを目指してまいりました。今後もお子さんのことで気になる様子がありましたらいつでも学校までご連絡ください。今年度もあたたかいご支援をいただきまして、ありがとうございました。

3【体づくり】 食育の充実や生活習慣の改善，体力の向上について重点的に取り組んでいます。 <保護者意識調査>

| 項目 | 肯定的評価の割合 |
|---------------------------|-------------------------------|
| ①進んで体を動かして遊んだり運動したりしている。 | 72.7%(▼8.3) |
| ②食事に関心を持ち、残さず食べようと心がけている。 | 75.4%(▼1.2) |
| ③毎日朝食を食べている。 | 95.5%(△0.9) |
| ④登校時間の1時間前までに起床している。 | 77.8%(▼1.8) |
| ⑤平日のテレビやゲームの時間。 | 53.2%(▼1.8) (1時間以内～2時間の範囲) |

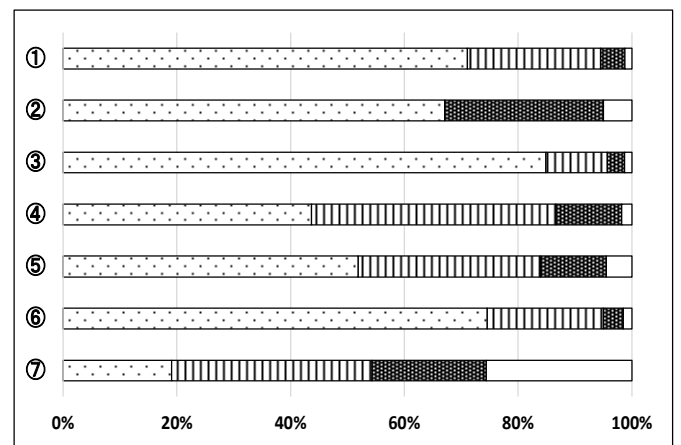
⑤は、 1時間以内 1～2時間 2～3時間 3時間以上



<子どもアンケート>

| 項目 | 肯定的評価の割合 |
|---------------------------|-------------|
| ①体を動かして遊んだり運動したりすることは楽しい。 | 94.5%(▼0.5) |
| ②給食を好き嫌いせず、残さず食べている。 | 67.1%(▼9.1) |
| ③朝食は、毎日食べている。 | 95.7%(▼1.4) |
| ④食の学習を生活にいかしている。 | 86.6%(△2.4) |
| ⑤家を出る1時間前に起きている。 | 83.9%(▼4.3) |
| ⑥朝晩、歯磨きをしている。 | 95.0%(△0.3) |
| ⑦平日、テレビやゲームの時間。 | 54.3%(▼0.5) |

⑦は、 1時間以内 1～2時間 2～3時間 3時間以上



<今後に向けて>

今年度の重点目標である食に関する「食の学習を生活に生かしている」という項目では、児童のアンケートでは、86.6%と前回の結果より、2.4ポイント上回りました。後期に入り、調理師専門学校や新潟医療福祉大学との連携で実践を通じた学びを体験しました。この体験により、家族の一員としてお弁当作りに関わったり、学習したことを実生活で生かしたりしようとする児童が増えたのではないかと考えています。これからは、外部講師の皆さんと連携し、地域の食材を学ぶ機会を設定したり、自分から食について関わろうとしたりする力を育成していきたいと思ひます。メディアに関する項目では、肯定的な評価をした児童が54.3%、保護者が53.2%となり、メディアとの関わり方に依然として苦戦しています。感染症対策から、家で過ごす時間が増えたことも要因として考えられます。これからは、メディアとうまくつき合う方法を引き続き、学校と家庭で協力して継続してトレーニングしていくことが大切だと考えています。自己管理能力を養うための絶好の機会だと考え、「ゲーム時間の管理ができないと勉強できないよね」「家で決めたルールは守る」など声をかけていきます。また、メディアと関わる以外では、どんなことをして家で過ごすかよいかなど児童と共に考えていきたいと思ひます。

